

平成24年ホヤ類調査結果速報 No. 2

平成24年7月23日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

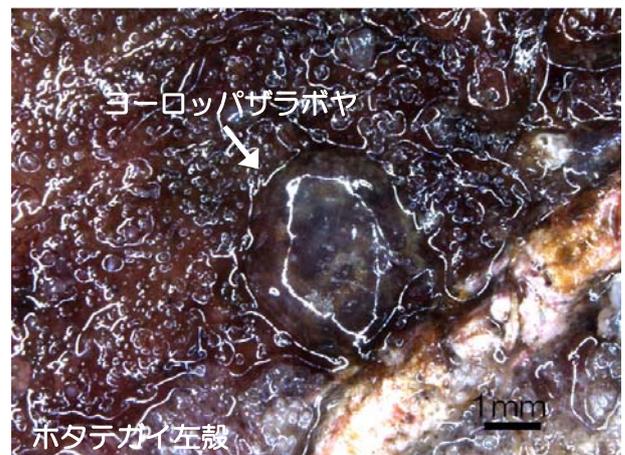
【アドレス：<http://www.fishexp.hro.or.jp/exp/hakodate/>】

7月17日に渡島管内八雲地区において、耳吊ホタテガイ付着物および浮遊幼生の調査を行いました。

結果概要

- H24耳吊りホタテガイ上に、ヨーロッパザラボヤの付着が確認されました（図1右）。付着しているヨーロッパザラボヤの平均体長は2.5mmで、まだ、肉眼では識別できないサイズが中心です。
- 付着個体数は、ホタテガイ1枚あたり0.9個体と少なく、八雲地区における付着の本格化は8月以降になると考えられます（表1）。H21のように付着時期が早く、全湾的に耳吊りホタテガイへの被害が深刻化する年ではないと考えられます（図3）。
- ヨーロッパザラボヤの浮遊幼生は、引き続き、出現しています（図4-2）。今後、付着個体数は増加すると見込まれます。
- 付着の本格化が遅い年は、耳吊りホタテガイへの付着量は少なくなる傾向にあります。一方、地区によっては、局所的な耳吊りホタテガイへの大量付着や稚貝籠への付着被害が発生します。今後の水産試験場や水産技術普及指導所の調査結果に注意してください。

図1 耳吊ホタテガイ（左）とヨーロッパザラボヤ（右）平成24年7月17日 八雲地区



問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 金森・馬場
TEL：0138-57-6074 FAX：0138-57-5991

1：耳吊りホタテ貝付着物調査

[調査月日：7月17日、調査場所：八雲沖 水深30m、上中下層 各5枚]

7月17日に実施した八雲調査定点（水深30m）の垂下養殖ホタテガイの付着生物調査結果です。ホタテガイを上層、中層、下層ごとに5枚ずつ抽出し、肉眼及び実体顕微鏡を用いて、付着物を採取しました。中層、下層でヨーロッパザラボヤが確認されました（表1）。ヨーロッパザラボヤの平均個体数は0.9個体と少なく、平均サイズも2.5mmと微小な個体しか見られませんでした（図2）。

表1 付着生物調査結果（八雲地区：平成24年7月17日）

ホタテガイ1枚あたり平均付着数量	上層	中層	下層	地区平均
全付着物重量	16.6g	9.8g	5.5g	10.6g
ヨーロッパザラボヤ	0.1g未満	0.1g未満	0.1g未満	0.1g未満
その他	16.6g	9.8g	5.5g	10.6g
ヨーロッパザラボヤ個体数	0.4個体	0.8個体	1.6個体	0.9個体
付着が早い年同時期(H21.7.23)のヨーロッパザラボヤ個体数	97.3個体	67.3個体	37.7個体	67.1個体
付着が遅い年同時期(H22.7.26)のヨーロッパザラボヤ個体数	0.3個体	3.7個体	2.7個体	2.2個体

図2.ヨーロッパザラボヤのサイズ組成（八雲地区：平成24年7月17日）

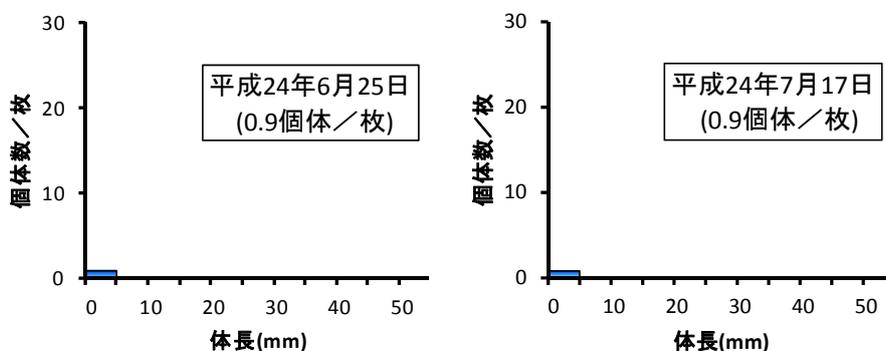
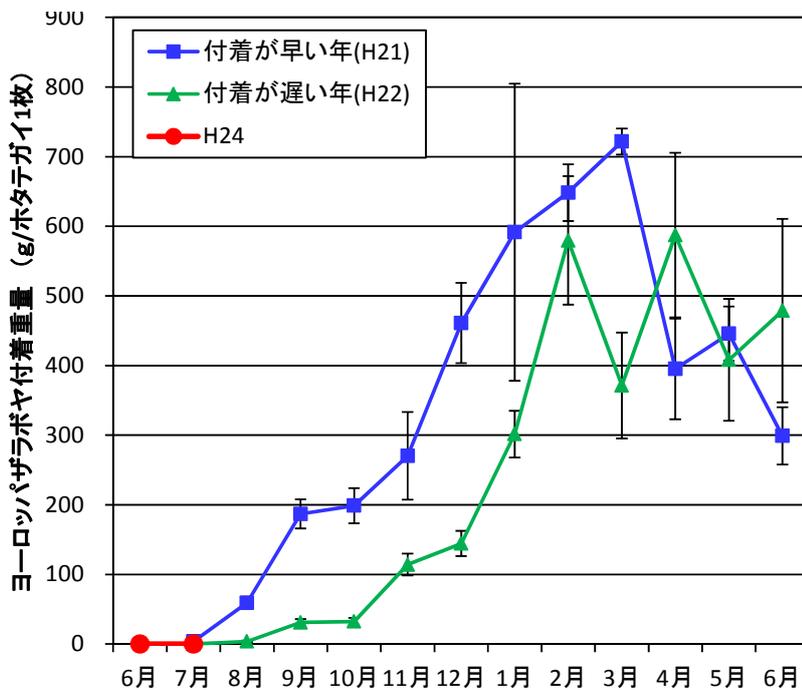
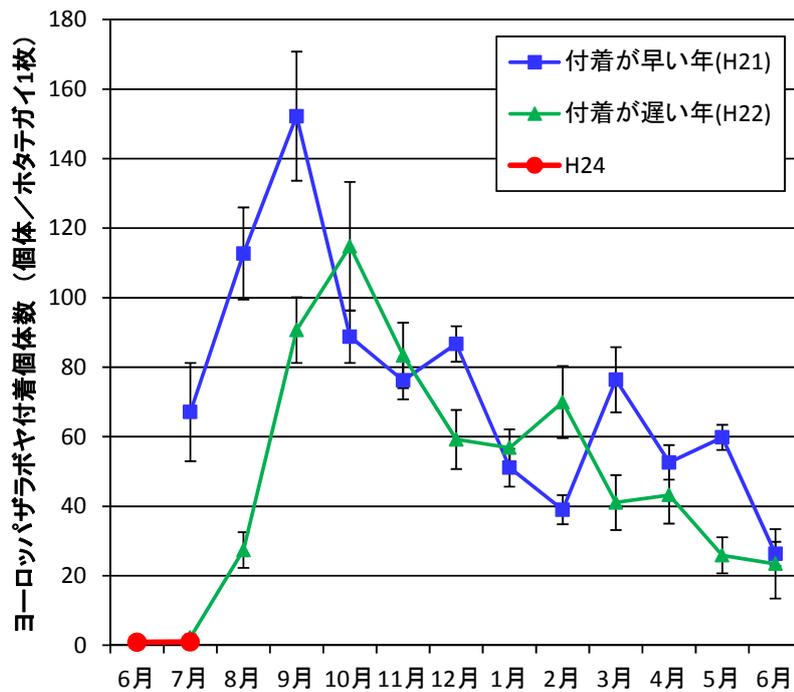


図3 ヨーロッパザラボヤの付着量（八雲地区）



上図：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数の季節変化

下図：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着重量の季節変化

各月のデータは全層（上層、中層、下層）の平均値で示しています（縦棒は標準誤差）。付着が早い年（H21）は、6月から付着が本格化したと見られ、7月にはホタテガイ1枚あたり60個体以上のヨーロッパザラボヤが付着し、全湾的に被害が深刻化しました。一方、付着が遅い年（H22）は、8月から付着が本格化し、付着重量の増加ペースは遅くなりました。なお、H21、22は7月から調査を開始したため、6月のデータはありません。

2：浮遊幼生調査結果

2-1. 八雲地区（八雲漁港沖合）調査結果

〔調査月日：平成24年7月17日、調査場所：八雲沖水深17m、水深32m、水深40m〕

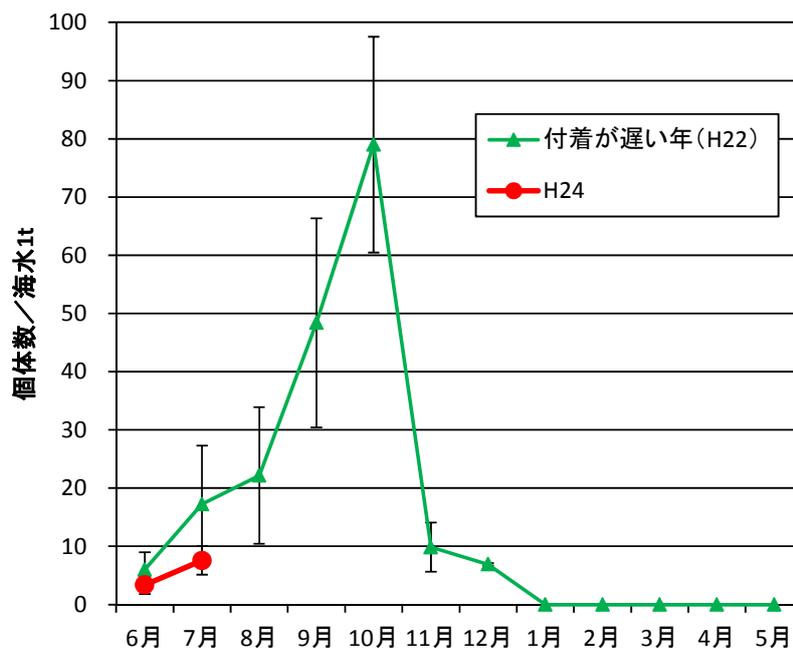
ヨーロッパザラボヤの幼生(図4-1)は3地点の平均で海水1tあたり7.6個体でした(図4-2)。先月は海水1tあたり3.4個体でしたので、増加傾向にあります。

図4-1.ヨーロッパザラボヤ幼生の形態



水温20℃の条件で、ヨーロッパザラボヤの卵は受精後、約14時間で孵化します。図4-1は20℃条件で受精から22時間後のヨーロッパザラボヤの浮遊幼生です。ヨーロッパザラボヤの浮遊幼生期間は短く、室内実験では水温20℃の条件で、孵化から6時間後（受精から20時間後）には、基質に付着して変態を始める個体が見られます。

図4-2.ホヤ幼生出現状況の経年比較（八雲地区）



※付着が早い年(H21)の出現状況については、浮遊幼生の形態に関する理解が不十分であったため、比較できるデータはありません。

(参考) 噴火湾の「ザラボヤ」について

平成20年以降、噴火湾の垂下養殖ホタテガイに大量に付着しているホヤ(通称「ザラボヤ」)は、ヨーロッパザラボヤという外来種であることが判明しています。ヨーロッパザラボヤの特徴や在来種との識別方法については、北海道立総合研究機構水産研究本部 HP (<http://www.fishexp.hro.or.jp/>) に公表されている以下の資料を参考としてください。

- ・金森誠：噴火湾のザラボヤの正体—外来種ヨーロッパザラボヤ—(試験研究は今 No.707)
- ・金森誠・馬場勝寿・長谷川夏樹・西川輝昭：外来種ヨーロッパザラボヤの生物学的特徴および簡易識別、同定について(北海道水産試験場研究報告81：151-156)